

持続可能な体験活動の先進例

小規模校による
合同実施！

神石高原町小学校5年生「山・海・島」体験活動

神石高原町立来見小学校・三和小学校・神石小学校

油木小学校・豊松小学校 対象学年（5年）

【体験活動場所・宿泊場所】

岡山県加賀郡吉備中央町・国立吉備青少年自然の家

【実施期間】

平成26年8月17日（日）～8月20日（水）

1.【学校紹介】

学校名	来見小学校	三和小学校	神石小学校
学校の概観			
校長名	上野 宏道	平元 清登	村上 俊二
児童数 (学級数)	55名 (6学級, 1特別支援学級)	125名 (6学級, 2特別支援学級)	51名 (4学級, 2特別支援学級)
所在地	神石高原町井関 2696	神石高原町小畠 1370	神石高原町福永 7798-2
電話番号	0847-85-2800	0847-85-2816	0847-87-0016
URL	http://www.jinsekigun.jp/ja/school/curumisho/	http://www.jinsekigun.jp/ja/school/sanwasho/	http://www.jinsekigun.jp/ja/school/jinsekisho/
学校名	油木小学校	豊松小学校	< 概要 >
学校の概観			<p>神石高原町は広島県東部、福山市の北に位置した自然に恵まれた地域である。</p> <p>町内5小学校の5年生は、それぞれの地域の産業（ぶどう、こんにゃく、トマトの栽培や和牛飼育など）を活用した地域学習に取り組んでいる。</p>
校長名	高石 昭文	小田原 まゆみ	
児童数 (学級数)	76名 (6学級, 1特別支援学級)	49名 (5学級, 1特別支援学級)	
所在地	神石高原町油木乙1	神石高原町下豊松 5323	
電話番号	0847-82-0926	0847-84-2011	
URL	http://www.jinsekigun.jp/ja/school/yukisho/	http://www.jinsekigun.jp/ja/school/toyosho/	

2. 【体験活動のねらい】

- ① オリエンテーションや水辺の学習を行うことにより、森や川などに関する様々な理解を深める。
- ② 体験活動を通して、自立心・課題解決能力・コミュニケーション能力・協調性などを身につける。
- ③ 集団行動の中で、公衆道徳や健康・安全などの実践力を養う。
- ④ 団体生活を通して友情を深め、小学校生活の楽しい思い出を作る。

3. 【日程（活動プログラム）】

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	朝の活動		朝食	午前の活動				昼食	午後の活動				夕食	夜の活動			
第1日							オリエンテーション 入所式	昼食	仲間作りゲーム				夕飯のつどい	夕食	天体観測	入浴	振り返り
第2日	起床・清掃	朝のつどい	朝食	カッター活動				昼食	スコアオリエンテーリング	野外炊事		夕飯のつどい	夕食	スタンプ練習	入浴	振り返り	
第3日	起床・清掃	朝のつどい	朝食	川の生き物の学習				昼食	水の流れの学習		スタンプ練習	夕飯のつどい	夕食	キャンドルの集い	入浴	振り返り	
第4日	起床・清掃	朝のつどい	朝食	退所準備	点検	焼き板		昼食	退所式								

4. 【参加児童の学年別，男女別数】 () 特別支援学級在籍児童：内数

学校名（学年）	男子	女子	合計
神石高原町立来見小学校（5年生）	8	4	12
神石高原町立三和小学校（5年生）	9（1）	6（1）	15（2）
神石高原町立神石小学校（5年生）	4（1）	4	8（1）
神石高原町立油木小学校（5年生）	4	4	8
神石高原町立豊松小学校（5年生）	3（1）	5（1）	8（2）
総計	28	23	51

5. 【町内小学校合同体験活動を実施する上でのポイント】

- 仲間づくりができる活動を最初に行う。
 - ・ 他校の児童と初めて出会う場を、ゲーム等を取り入れ楽しい雰囲気で行う。
 - ・ お互いが声をかけ合える活動を仕組む。
 - ・ グループのメンバーが必然的に協力していく活動を仕組む。

- ・ 活動中の児童の姿を肯定的に評価する機会を多くする。
- 宿泊体験活動中の役割分担（指導者・児童）を明確にする。
- （指導者）
- ・ 指導者の役割分担は、複数で行う。
 - ・ 緊急時の対応について、個々の役割を全員で周知しておく。
- （児童）
- ・ 担当する内容の理解と全体の中での位置づけを把握させ、主体的に活動できるようにする。
 - ・ 活動後に自己評価をし、活動を振り返る。
- 各校の宿泊体験活動における課題や児童実態を事前に交流しておく。
- ・ 支援が必要な児童への関わり方を参加指導者全員で確認し統一しておく。

6.【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置付け	実施場所	指導者
4月～7月	事前学習 ・ 宿泊体験活動のねらい ・ 活動内容や活動場所に関わる調べ学習 ・ しおりを活用しての班メンバー等の把握	5時間 ～ 15時間	総合的な学習の時間 学級活動 ※道徳の時間	各小学校	5年担任
8月	宿泊体験活動（3泊4日） ＜吉備青少年自然の家＞	24時間	学校行事 総合的な学習の時間 理科 家庭科	国立吉備青少年自然の家	各校引率 教職員 自然の家職員
9月～12月	事後学習 ・ 体験活動のまとめ ・ 成果発表会（報告会）の準備 ・ 成果発表会（報告会）	5時間 ～ 15時間	総合的な学習の時間 学校行事	各小学校	5年担任

7.【体験活動の概要】

＜1日目＞

○仲間作りゲーム



初めて出会う町内5校の児童の不安感を取り除き、これからの活動への期待感を高めるために、ゲームを中心にした活動を行った。

- ・ できる限り教職員は手助けをせずに見守る体制をとった。
- ・ 指導員と連携を取り教職員の支援について確認して行った。

○天体観測



宇宙の持つ神秘や星空の美しさを楽しもうと天体観測を行った。

- ・ 理科で学習した星座を実際に見せたり、天体望遠鏡で土星の

輪を見せたりした。

- ・ 夜間飛行をしている航空機や人工衛星が放つ光の出し方や色の違いなども紹介し、夜空に興味を持たせた。

<2日目>

○カッター活動



5校の児童が力を合わせて目標を達成する過程を通して、規律や協調性を学び、達成感を得るためにカッター活動を行った。

- ・ 声をそろえることを大切にし、指導と評価を繰り返した。
- ・ 安全面について、指導員から指導を受けて活動させた。
- ・ 子どもたちに共通の目的（ポイント探し）を持たせた。

○野外炊事



準備から片づけまでの作業を分担して野外炊事を行った。

- ・ 自分の仕事だけでなく協力できることを自分で見つけさせた。
- ・ 作業の分担をし、自分の仕事を明確にしてから作業をさせた。
- ・ 教職員は安全面での配慮をしながらも、出来るだけ作業補助はしないようにした。

<3日目>

○水の流れの学習



板の上に集めた砂で川の模型を作り、そこへ水を流して水の流れや川の状態の変化について学習した。

- ・ 活動の目的を明確にしてから活動を開始させた。
- ・ 実験の準備や実験結果の記録など、班ごとに役割分担をさせて協力しながら活動を進めさせた。

○キャンドルのつどい



屋内でキャンドルの火を囲んで、歌やゲーム、スタンプを通して交流を深めながら仲間との楽しい時間を過ごした。

- ・ 輪になかなか入れない児童への誘い等、子ども同士での声かけが多くなるように進めた。
- ・ 肯定的な評価（声かけ）を多く行い、ゲームやスタンプに参加する楽しさが味わえるような雰囲気を高めていった。

<4日目>

○焼き板作り



3泊4日の体験活動を振り返り、心に思い描いたことを文字で焼き板に表した。

- ・ 活動内容を想起させるために、ピーイング（ふり返し）やしおりの活用を助言した。
- ・ 4日間の活動を通しての自分へのメッセージとして考えさせた。

8. 【体験活動の効果をもとめるための取組のポイント（事前・事後学習）】

<事前学習>

- 体験活動を通して、身に付けたい力について考えさせ、目的を達成させるために必要なことについて考えさせた。
- 「集団生活のルールを守る」「みんなで力を合わせる」ことの大切さを意識させ、日常の行動から指導していった。
- 活動の見通しをもたせるため、活動内容についてグループで調べ学習を行わせた。
- 施設のホームページを活用し、施設や活動の概要を把握させることで、『「山・海・島」体験活動』への興味・関心が高まるように指導した。
- 広島県教育委員会のHPの資料を活用して『「山・海・島」体験活動』のねらいを知らせることで、児童には、「自分のことは自分です」「自分一人では出来ないことはみんなで協力・工夫して活動・解決する」という目標を自分たちで設定させた。

<事後学習>

- 体験活動発表会（成果発表会・報告会）
3泊4日の体験活動で体験したこと学んだことを整理し、保護者・地域の皆さんや4年生（下学年）を対象に伝えたいことが分かりやすく伝わるように表現方法を工夫して発表を行った。

この活動を通して、次のことに取り組んだ。



- ・ 体験活動で学んだピーニング（振り返り）を学級会活動で活用した。（学級活動）
- ・ 体験活動の経験を想起させ、資料内の登場人物等の心情や言動を深く考えさせた。（道徳）
- ・ 体験前の自分と比べながら、体験活動で身についた力や考え方などの振り返りを行った。（総合的な学習の時間）

また、「体験後のアンケート結果」を学級通信に載せたり体験発表会で紹介したりした。

9. 【交流先や施設等との連携及び安全面の配慮事項】

交流先や施設等との連携の内容やポイント

- 事前に施設の担当職員を招き、事前研修会を行った。施設利用や活動プログラムの内容について説明を聞いたりたずねたりすることで、参加する教職員の意識統一を行った。
- 状況に応じて、活動の開始時刻や終了時刻及び活動中の休憩について指導員と調整し、過密なスケジュールにならないようにした。
- 医療施設の確認を行い、緊急な場合での対応に備えるようにした。

安全に実施するために留意したことや取り組んだこと

- 体調が悪くなった時はすぐに近くの先生に伝えることと、指示された活動範囲からは絶対出ないことを事前学習でおさえた。
- 熱中症対策として、全ての食事の度に各自の水筒へ飲料水を用意し、活動中の水分補給を

状況に合わせて行った。

- 所内スコアオリエンテーリングを行う際、危険箇所や活動範囲を示す位置には教職員を配置した。
- 各校の養護教諭が交代（前・後半）で引率し、常時2名以上の体制で健康管理を行った。
- 事前に教職員での打合せを密に行い、各活動における注意点を明確にした。基本的には見守るが、危険だと判断した場合は声かけや補助を行った。
- 施設のHPを見たり、担任が実際に現地に行ったりして、施設の概要を事前に把握した。

配慮の必要な児童への取組

- 教職員がいつでも支援できる位置にいて活動を見守った。
- 配慮が必要な児童について、各校で事前に連携をとり、共通理解を図った。必要な場合は、施設（レストラン等）関係者とも事前に協議を行った。
- 各班一人は教職員がついて、事前に配慮が必要な児童は注意深く見守るようにした。
- 配慮の必要な児童に対しては、どのような関わり方をすればよいか保護者と協議をし、参加する教職員間での共通理解が図られるように資料配布や協議を行った。

安全管理体制（指導体制）

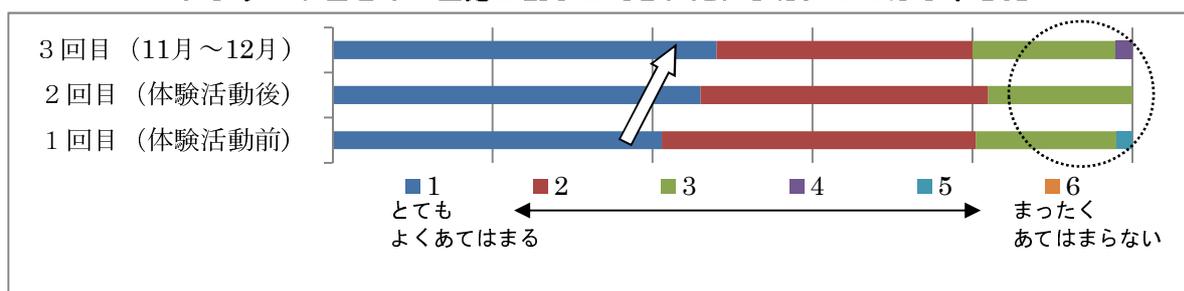
- プログラムごとに担当校を決め、該当校が全体指導をとり、その他の学校の教職員が児童の安全確認をした。
- 施設の指導員とも連携をして、常に複数の指導者で見守るようにした。

今後の改善点

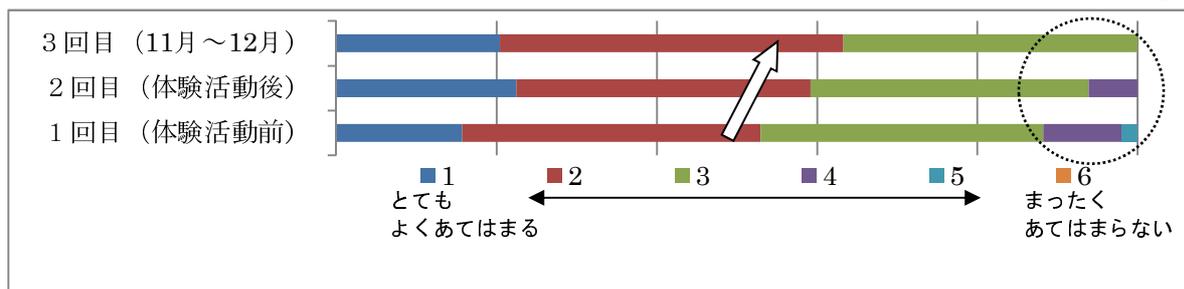
- 教職員が途中交代する場合、児童の様子について引き継ぎをする時間をより確保する。
- 参加する教職員全員で、3泊4日の体験活動のシミュレーションを行うなどして、いろいろな場面での担当者の動きを確認することが必要である。

10. 【体験活動の成果と課題】

アンケート番号1「自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる。」



児童アンケート結果



保護者アンケート結果

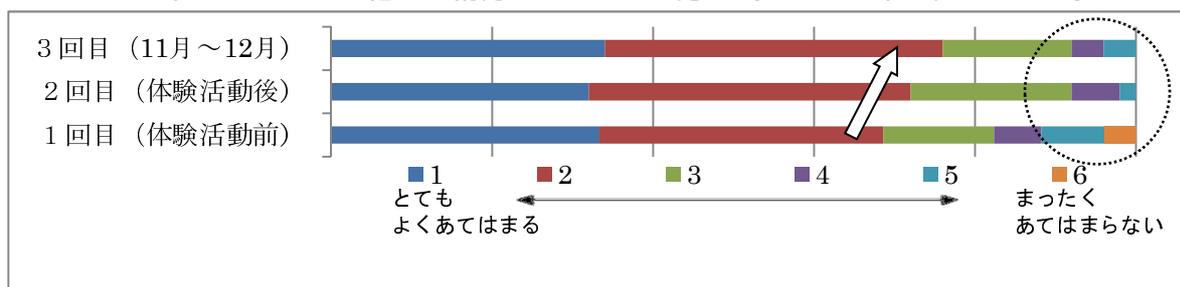
成果

- 自分のことは自分でやろうという意欲がでてきた。
- 責任感を持って取り組み、一人で出来ることが多くなった。

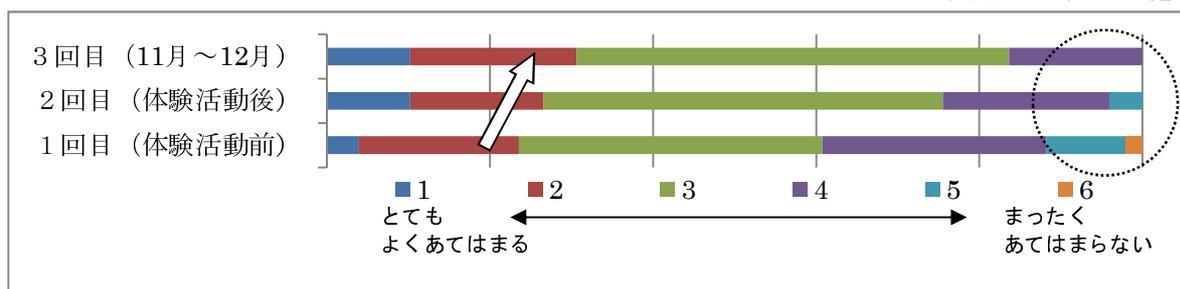
要因

- みんなで協力して活動しないと出来ないことや終わらないことを経験した。この経験を通して、一人一人が自分のやることをしっかりやりきることの大切さ、そして、仲間と協力することの必要性を強く感じる事ができた。
- みんなで活動をやりきったり目標を達成したりすることで達成感を感じる事ができた。
- 活動や生活におけるリーダーを担ったことで責任感が育った。

アンケート番号5「相手が納得するように自分の気持ちを言葉で伝えている。」



児童アンケート結果



保護者アンケート結果

成果

- 自分の言いたいことをはっきり言えるようになってきた。
- 進んでコミュニケーションがとれるようになってきた。
- 分からないことがあっても、そのままにせずに友だちに聞くなどの積極性がでてきた。
- 少しずつ周りの人を見ての言動が出来るようになり、自己中心的な行動が減ってきた。

要因

- 他校の児童と関わりをもつ機会（必然性のある）が多くあり、活動が自分の思いだけで出来るものではないことを感じた。
- 多くの同級生と生活する中で、自分の考えや思いを伝えることの必要性と伝えたいことを理解してもらいたいという気持ちが高まった。

改善点

- 事前研修では、参加教職員が活動プログラムの内容及び期間中の活動をシミュレーションし、必要な対応等については意識統一をする。
- 事前の研修時に、児童に考えさせ自己決定させる時間をどのように設定するかを参加教職

員で確認する。(声をかける場面と見守る場面などの意識統一も含める。)

- 施設の指導員との連携を「いつ」「どのように」取るか明確にしておく。
- 児童及び教職員の怪我や病気に係る緊急時の対応がスムーズに行えるよう、マニュアルをフローチャートにしておく。
- 体験活動で学んだことや経験したことを、以後の学校生活の中で活用できる場を意図的に設定していく。